

今月の



隣に伝えたい 新たな言葉と概念

【医師偏在】

英 Regional Uneven Distribution of Physicians

和 医師の地域偏在

解説：

偏在という用語は「あるところだけかたよって存在すること」を意味するが、医療界では医療従事者の地域偏在や医師の診療科偏在などが話題になる。一般に医療従事者の地域偏在は人口の多寡と相関するが、医師の地域偏在は年齢や性別とも関係する。実際、20代の医師は大学医局による一時的な医師派遣を除けば、専門医取得に必要な診療環境がない地方での勤務を嫌う傾向がある。また、30・40代では、家族や子供にとって魅力のない地方での勤務を避けがちである。特に、その地域に大学進学校がないと、医師は都心部からの通勤や単身赴任を選ぶことが多い。ちなみに、子供が大学に入ったあとの50代以降の医師は、地域での生活環境に家族（配偶者）の理解があるか無いかで定住判断の理由となりやすい。そのほか、現在、新卒医師の4割近くが女性であるが、未婚の女性医師は都心部での勤務傾向が高いように思われる一方で、既婚者の2/3～3/4は男性医師を配偶者としていることから、男性医師と同じ居住地域を選びやすいともされている。

医師の地域偏在対策として、2004年の「新医師臨床研修制度」の創設までは大学医局による派遣機能がある程度機能していたが、現在は民間の人材紹介会社に医師紹介を委ねている医療機関も少なくない。医療法の改正により、いわゆる地域枠の医学生を卒業後に一定期間地方へ強制配置するという方策も検討されているが、当面は都心部からの非常勤医師による応援や定年を迎えた地域の高齢医師の継続雇用で対応しているのが実状である。

（浜松医科大学医学部附属病院 医療福祉支援センターセンター長（特任教授） 小林 利彦）

本誌485pに記載